

第5回茅ヶ崎市民文化会館再整備検討協議会 会議録概要

議題	1 外部空間改修について 2 その他
日時	平成21年11月4日(水)14時から16時まで
会議開催場所	茅ヶ崎市役所本庁舎7階第2会議室
出席者氏名	白井 精治、片岡 俊彦、川口 寛、松永 耕作、濱田 洋子(代理出席)、塚原 康男、杉山 貴子、山内 隆徳 事務局13名(文化推進課3名、建築課4名、エイアンドティ建築研究所4名、学識経験者2名)
会議の公開・非公開	公開
傍聴数	0名
非公開の理由	—

(事務局)

皆さんこんにちは。定刻になりましたので、ただいまから第5回茅ヶ崎市民文化会館再整備検討協議会を開催させていただきます。

冒頭、私の方からご報告があります。本日は委員さんで欠席の方が大分多くなってしましまして、望月委員、和田委員、遠藤委員、丸山委員、澤委員。以上5名につきましては、欠席ということでございます。また、吹谷委員におかれましては、代理の方が出席ということで濱田さんにお越しいただいております。よろしくお願いいたします。副会長であります岩本委員におかれましては、遅れて出席をされるという報告が入っておりますので、よろしくお願いいたしますと思います。

また、前回の会議の中で白井委員さんのほうから、施設見学をという意見をいただきまして、出来ましたら今日ですが、この会議終了後にそういったお時間を持たせていただけたらと思っておりますので、もし会場の見学をご希望される方がいらっしゃいましたら、会議終了後に現地のほうをご案内させていただきたいということで、始めさせていただきますと思います。では、会長よろしくお願いいたします。

(杉山会長)

皆様こんにちは。本日もお忙しい中ご出席していただきましてありがとうございます。ただいまから第5回茅ヶ崎市民文化会館再整備検討協議会を開催させていただきます。本日、傍聴の方はいらっしゃいません。では、早速ですが議題に入らせていただきます。議題1『外部空間改修について』を議題といたします。事務局より説明をお願いします。A&Tさんよろしくお願いいたします。

(A&T建築研究所)

こんにちは。A&Tの進藤と申します。よろしくお願いいたします。

(A&T建築研究所 (プロジェクトで説明))

それでは、順番に説明させていただきます。外構の基本的な考え方ですが、現在の市民文化会館の敷地は、現在茅ヶ崎市の緑化重点地区に指定されておまして、重点的に緑化を推進すべきエリアとなっております。しかし、現在の周辺地域につきましては、中央公園を除いてまとまった緑が少ない空間となっております。そこで、市民の皆様が親しまれている中央公園の緑と連携して『緑のネットワーク』を形成できるように、県道を挟んだ文化・行政ゾーンにも、ある程度まとまった緑を植えたいと考えております。

現在の市民文化会館にも、市民プラザを中心とした植栽はございますが、点在して植えられているために、緑のかたまりとはなっておりません。今回の計画では、地上レベルを市民プラザの中心に、市民や文化の交流スペースとして開放するとともに、オープンスペ

一スの真ん中に広場を確保した上で、広場を囲いこむ南側と東側に、道路との緩衝帯として、2連の植栽が緑のボリュームを作り出すことを提案したいと思っています。これは、フランスのボージュ広場の写真ですが、イメージとしては足元から3m程度まで下枝を払った剪定をおこないまして、上部につきましても7m～8m位で抑えたような管理された樹木にしたいと考えております。そうすることで、囲われた雰囲気が出ると考えております。

現在の市民プラザに植えられているのは、アメリカフウという木がメインとなっていますが、一部で植生も弱く移植にもコストがかさむということが考えられまして、再利用につきましても、あまり考えておりません。敷地のコーナー部分に常緑樹が1本植わっていますが、この木につきましても、シンボルツリーとして広場の真ん中への移植を考えており、移植することで、市民プラザの緑の継承として考えてはどうかと思っております。

ふれあい橋につきましても、鍵形になっており、現在の市民プラザにアプローチするようになっておりますが、一部を解体しまして、解体した端部にエレベーターと階段を設置するような形にしております。デッキにつきましても、橋の構造体が大きな存在感を持っているため、それを植栽で隠すことを提案したいと思っております。市庁舎側の歩道を含めまして、敷地内のデッキ部分を緑の植栽で隠すことによって、構造体の存在感を軽く見せられるのではと考えております。それと、先日ご説明いたしました一部デッキ下を利用した展示室ですが、その上部につきましても、大ホールホワイエとつながった専用テラスとして整備する計画を考えております。断面ですが、ある程度幅のある植栽をデッキの周囲に作りまして、屋上庭園に来た人が植込越しに、中央公園側の緑へと視線が抜けていくように考えております。下には、自動車やバスが通っておりますが、テラスからはそれらが見えなくなるような断面計画を考えております。話としては以上ですが、そちらに既存と改修の模型を作っております。近くで見ただけだと分かりやすいので、そばに寄っていただけますか。2つは、同じスケールで作ってありまして、既存と改修案でございます。

(A&T建築研究所 (模型の説明))

既存のものでは現在、ふれあい橋から市民プラザにつながっていて、その下が駐車場になっております。地上レベルからは、大階段で上がっていただいて現在の市民文化会館に入ってくださいという形になっております。

緑としましては、丸いベンチの部分にアメリカフウという木が植えられています。先ほど、1本移植してはどうかという話をさせていただいたのが、こちらの木です。常緑の椎かなんかだと思うんですが、それを緑の継承として移植してはどうかということです。

ふれあい橋につきましても、プラザに伸びている部分をカットいたしまして、端部に地上に降りるエレベーターと階段の設置を考えております。

今度の計画では、全ての人が地上レベルから館内に入れるということを主題としておりま

すので、一度市民プラザを通っていただいて、メインエントランスに行けるようにして、それぞれの施設にアプローチできるようにと考えております。この市民プラザにつきましては、ただの広い空間ということだけではなくて、文化的または芸術的なイベントが出来るような場と考えて、先ほどのボージュ広場のように植え込みで囲った空間にしたらどうかという提案でございます。

(松永委員)

駐車場の確保については？

(A & T 建築研究所)

駐車場は、一部現状のまま残し車椅子利用者のためのものと考えておりますが、一般利用者につきましては、市庁舎の駐車場を柔軟的に利用していただくことを考えております。

(A & T 建築研究所)

前回の協議会で、こちらにつながるデッキがあったと思うんですが、将来的に体育館や市庁舎の建替え等を考えられた時には、こちらまで延伸していただいて、途中から接続するような計画を考えております。

(白井委員)

催物があったり、閉館したときに、1200名～1500名が出てくるわけですが、そのときのエレベーターの対応、または駅に向かう歩行者のエレベーターの対応というのはどうなんでしょう。現在は、帰り道がかなり混雑するんですが。

(A & T 建築研究所)

エレベーターというよりも駅に向かう方は、地上レベルで歩いていただくことになると思うんですが。

(山内委員)

植栽のところは、普通に通れるようになっているということなんですよ。

(A & T 建築研究所)

はい。

(川口委員)

真ん中の広場の部分ですが、学校で来た時などで集まるときに何人くらいが集まれるんですか？

(A & T 建築研究所)

面積的には 600 m² くらいあります。

(川口委員)

今の部分に比べては広いですか？

(A & T 建築研究所)

現在のまとまった広場は、プラザの一部分なんですけれども、それと比べて倍近くになっていると思います。

(本杉アドバイザー)

1000 人くらいは集まれるのではないのでしょうか。

(A & T 建築研究所)

そうですね。

(片岡委員)

茅ヶ崎市というのは自転車が多いんですが、現在は駐車場がありますから、その一部を使えばいいんですが、今後そのような形態にした場合、自転車や何かはどこへ置く予定なんですか？

(A & T 建築研究所)

まだ具体的に形は考えてないんですが、これから準備検討していきます。

(片岡委員)

今、車の関係で庁舎や市営などを利用するというお話があったんですけども、その辺はどうなのかと。

(杉山会長)

茅ヶ崎は非常に自転車が多いですしね。

(A & T 建築研究所)

現状は、このあたりにまとまったものがございますよね。

(杉山会長)

高校の合唱会か何かのときは、現状の一般の駐車場を自転車置き場にしています。600台位来るんですよ。

(片岡委員)

これは市との関係になると思うんですが、現在市営駐車場というのは、社会福祉協議会で、土・日・祝日は、障害者の雇用の場としてやっているんですが、土・日・祝日に催物があった場合、市の駐車場を利用するとなれば、有料なんですよ。そのような方法が今後どのようにされるのか少し心配なんです。その他に、平日なんかでも、ご存知のように西側に駐車場があるんですが、新庁舎の建設予定地にもなっていますし、駐車場をどのようにするかはまだ聞いていませんが、現在の市の駐車場では、平日でも曜日によっては相当な台数でいっぱいになってしまうんですよ。そういった中で、今の計画でも多少あるのはいいんですが、今後現在の市民文化会館の駐車場がなくなるということを考えると、そういった部分も考える必要があるのではと思うんですよ。

(A&T建築研究所)

そのあたりは、茅ヶ崎市さんと話し合っていきたいと思います。

(片岡委員)

そうですね。

(杉山会長)

木が植わっておりまして、先程自由に通れるというお話がありましたが「ここが文化会館か」と分かるのは、このガラスのボックス部分になりますか？初めて来た方が分かる感じですか？

(A&T建築研究所)

葉が多い木などでは見えないかもしれませんね。

(本杉アドバイザー)

3mまで枝がない木であれば、普通の人間の高さであれば十分に見えると思います。

(A&T建築研究所)

常緑にするか落葉にするかというのも重要ですね。季節によって若干変わってきますから。

(杉山会長)

皆さんお気づきかと思うんですが、夜がこちら辺は暗いですよね。

(本杉アドバイザー)

ちょうど公園と向かい合っていて夜になると両側が暗いんですね。

(大野アドバイザー)

今回の計画である種の閉塞感みたいなものはなくなるでしょうね。すごく開放感が出るから。

(白井委員)

樹木はどういったものを考えていらっしゃるんですか。
イチョウですとかケヤキはよく葉が落ちて大変なんですよ。

(山内委員)

そうですね。清掃しても、後から落ちてきますからね。

(白井委員)

掃除する人を雇うにしても、お金のかかる話ですから。その辺の事も考えてもらいたいです。

(川口委員)

まあ、一年中葉は落ちるものですから。

(本杉アドバイザー)

一年中青々していても、葉が落ちないという木はありませんからね。

(A&T建築研究所)

一度に落ちないにしても、常緑樹も葉変わりますからね。

(片岡委員)

落葉樹だといっぺんに落ちますからね。

(A&T建築研究所)

季節感はありますがね。

(白井委員)

桜はもういいかなと思いますが。公園の方が綺麗になりましたから。

(A & T 建築研究所)

市の木というのはあるんですか？

(杉山会長)

アカシヤです。

(塚原委員)

どれくらい先を見通していらっしゃるのでしょうか。木というのは20年経つと苗が大きくなりますし、30年もしますとこんなに大きくなりますからね。ですから、うっそうとしてしまうとまた違った印象になりますが、どれくらいを考えていらっしゃるのかお聞きしたいんです。15年から20年くらいですか？そうしたら、そのときに、また大改装ということですか？

(A & T 建築研究所)

30年後でも使い続けていける施設ということで考えています。

(塚原委員)

そうしましたら、大きくなるものは間を離しておやりにならないといけないですね。

(A & T 建築研究所)

そうですね。

(塚原委員)

大変ですよ。先まで見通してつukらないといけないのは。

(A & T 建築研究所)

木の種類につきましては、専門家と一緒に協議してご提案させていただきたいと思います。

(杉山会長)

以上でよろしいでしょうか。

(A & T 建築研究所)

はい。

(杉山会長)

はい。ありがとうございます。

(A&T建築研究所)

今日の外構計画で、大体ご了解いただけたということによろしいでしょうか？

(一同了解)

了解していただいたということで、この先設計の方を進めていただきたいと思います。

(杉山会長)

ありがとうございます。

今、A&T建築研究所さんからご説明いただきました。皆様から模型をご覧になって、意見が出ましたが、以上でよろしいでしょうか？

(松永委員)

一ついいですか？全体の話ではなく展示室なんですけど、私は書道なんですけど、ちょうど今度県民ホールで2月にやる展示会の要綱が来ているんですけど、一番大きなもので大体3mなんですよね。ですから、3mの天井だといっぱいになってしまうんですね。今日、業者に聞きましたら、3m20cmあればいいんですよ。ところが、この会館の天井高がもう決まっていますので、これがもし無理であれば下を少し掘って20cm下げるかなんかして欲しいですね。そうでないと入らないものが出てきてしまうと思うんですよ。

いろいろな要綱を見ていると3mぐらいです。県民ホールは結構高いんですけど奥の方はそうではない。それでも3mなんです。全部3m以内と書いてある訳ですから、額屋さんが合わなくなってしまうんですね。全員が大きい訳ではないんですけど、3m20cmまでにしてくれば業者はOKだと言っていましたので下を取るしかないかなと思います。

(A&T建築研究所)

展示室につきましては、先日のご意見で、3.5m欲しいという話を伺っています。その際に構造体の梁を部分的に出して、天井部分で上げるとなれば、3.5mは可能です。その辺りは、つめた段階で話させていただきます。

(松永委員)

3.5mという意見も、飾る業者に聞いたら、それは高すぎるから3.2mでいいんだと言っていました。他の業者に聞くと分からないですが、あまり高いとライトや脚立との関係で逆に大変なんです。ですから3.2mがベストなんです。それと天井は梁が出てデコボコしているんですけど、できれば平らにしてもらいたいです。どこでもスポットライトが多いですが、

なるべく部屋を蛍光灯にしてもらいたい。スポットライトの場合には、2.5mのような長い作品とかは一部は当たりますが下が当たらない。写真とか絵の四角ものは良いんですが、長いものに関しては非常にやりづらい。できれば部屋を明るくするのが一番良くて、さらにスポットライトがあればいいんじゃないかと思います。

(A&T 建築研究所)

展示につきましては、下を掘るといのは地中に格子状に梁がありまして、下を掘る訳にはいきません。上部でなんとか梁型が出て天井を隠すということになると思います。

あと照明の手法につきましては、私ども愛知県の県立美術館などやっておりますので手法は分かっております。ただ、展示の壁面位置も、ある程度想定していかないと照明なども決められませんので、その辺も細かい設計のときに調整したいと思います。

(杉山会長)

はい。ありがとうございます。以上でよろしいでしょうか。

次に議題 2。その他に移ってよろしいでしょうか。みなさま方、または事務局から何かございますでしょうか。

(A&T 建築研究所)

前回までで改修計画の平面的な考え方を説明させていただいたんですが、その中で、大小ホールのトイレにつきまして、器具の数の算定などをお伝えしたいと思資料を作りました。お手元には配っていないのですが、パワーポイントの方で説明したいと思います。

(A & T 建築研究所 (プロジェクターで説明))

衛生器具の算定にあたりましては、設備学会の算定方法を利用して考えていきたいと思っています。空気調和は、衛生工学会で出している『衛生器具の適正個数算定法』による算定方法を採用します。まず利用人数の計算をするのですが、ホールにつきまして経験・統計により男女比を計算しております。公演内容によって男女比は変わってくるんですが、女性を多く見込んで男女比 5 : 7 程度で計算を推奨しています。あとは、対象面積内のトイレが分散しているときは、多少割り増しして計算します。大ホールは、計算がしやすいように 1400 席にします。それを 5 : 7 に振り分けまして 1 割増しにすると選定利用者数というのは、男子が 642 人で女子が 898 人ということになります。同じように小ホールも 400 席で計算すると、男子が 167 人、女子が 233 人ということになります。

今度は、サービスレベルです。どの程度の待ち時間で、利用者の方が利用していただけるのか。これも学会の方で出している指針がございます。レベルに 1.2.3 という設定がされているのですが、レベル 1 というのが、約 8 割の人が満足できる最大待ち時間です。

今回の目標設定としましては、レベル 1 を想定として計算を進めていきたいと思っています。

男子の大便器で、レベル 1 で 120 秒ぐらいであれば 8 割の人は待てます。男子の小便器は大体 15 秒。男子の手洗い器で 8 秒。女子の場合はレベル 1 で 40 秒。洗面で約 10 秒程度だったらストレスなく待てるということです。そこに大ホールの人数を当てはめてみます。642 人に想定すると男子の大便器で 11 個。小便器 11 個。手洗い 7 個。女子の方は 898 人で 33 ブース。手洗い器で 11 個という計算ができます。同じように小ホールを計算してみます。こちらも、それぞれ男子が、大便器で 3 個。小便器で 5 個。手洗い器で 3 個。女子が、9 個及び 4 個という計算になります。

それを、今のグラフから得た数字で既存に対してどうなっているのかを見てみます。現在の大ホールで、トイレがどれほど設置されているかを見てみます。1 階席の客席下のところに現在これだけの便器が備えられています。2 階のメインホワイエの部分には、現在利用できるトイレはございません。3 階と称しているのは 2 階席の後方にあるトイレでございます。これの総数がこういう数字になっています。この学会の基準レベルによって推奨されているものに対して、小便器と手洗い器はプラスの方になっているのですが、女子の方ではマイナスの数値となっています。このオレンジ色がプラスになっている部分で、ブルーのところは先ほど計算した推奨基準から下回っています。改修後については、プランがスケッチ段階なので、想定値ということで見てください。改修案では、2 階部分に新しくトイレを増設することが大分効いてまして、総数で現状のトイレに対して増えている部分は、全部プラスなのでオレンジ色になっていますが、学会基準の数値に対しても、全てのところでそれ以上の数字が出ています。多目的トイレというのは、現状は 1 階と 3 階ですが、新たに 2 階にも増やしていますので大分プラスになっています。

次に小ホールです。これも小ホールの数値がここに載っています。それを現状と比べてどうかということです。現状では、男子の小便器は先ほど計算した数値より若干プラスになっていますが、後は基準値と±0 くらいです。それを今度の改修案の想定している個数にして見ますと、スペース的にあまり広がる部分がなかったものですから、それほど数は増えていないのですが、ここに多目的トイレがあり、現状なかった部分がプラスになっています。以上、これを指標に今後の設計を進めていきたいと考えています。

(杉山会長)

ありがとうございます。女性が多いということで増えていいと思います。

(白井委員)

衛生工学というのは良く分からないですが、トイレが混むのは、大体、開催前に、ちょっとトイレに行ってこようと思う時間帯ですよ。開催している間はそれほどじゃないと思います。基準の数値というのは、衛生工学で出ているんですか？

(A&T 建築研究所)

設備に衛生工学会という学会があるんですが、そこでいろいろ検証しています。建物の用途ごとに基準を算定しています。これは劇場のデータを使っていますので、幕間とか開演前とか集中するときに利用者方が増えるということを想定した基準値です。先ほど基準のレベル 1.2.3 というのを見ていただきましたけど、標準的なものはレベル 2 というもので、約半数の人が許容できる最大待ち時間として設定しているものです。レベル 1 というのは、待ち時間が短くなっている設定と考えています。これも地域的な特性や講演内容によっても大分変わってくると思うので、どれが正解という答えは出てこないと思います。今までの学会や経験上の数値として、この辺りが最良じゃないかという指標として見ていただきたいです。

(白井委員)

文化会館のアンケートの中にも開演前のトイレが混むというアンケートの結果が出ているんですよ。

(A&T 建築研究所)

数は大分増えていますので、改善されると思います。

トイレの作り方のところでも、どのブースが空いているかというのは一目で分からなかったりすると思います。空いているブースにつきましては、旗みたいなものが出るサインを絡めて、作り方を考えます。そうすれば多少なりとも回転が速くなると思います。

(大野アドバイザー)

よろしいですか。参考までに申し上げますけど県民ホールの場合は、女子トイレに赤ランプが付いていて、入ると赤くなります。休憩時間になると並びますので、そのときは女性の誘導員を配置します。空いているところに順次誘導するので回転は速くなります。扉の外側に赤ランプを付ける事だけでも大分違うと思います。

ただ、学会の算定方式は、ホールの場合、非常に甘いと思います。いずれの会場をご覧になってお分かりと思いますが、休憩時間に女性トイレの前に並ばない館はないと思います。宝塚やバレエ公演の場合は、女性の比率が高くなりますから、休憩時間 20~30 分くらいありましてもぎりぎりまで並んでいます。それは、学会レベルより相当数割り増してお考えになったほうが、良いのではないかと思います。男性は、それに関して回転数は速いですからね。男性が並んでいることは、よほどでない限り見かけません。だから、その辺りは女性トイレをかなり多めにしておいて調度だと思います。休憩時間になると来られた方々は、女子トイレの方へ駆け足されてますからね。今度の場合若干増えていますから多少は大丈夫かと思うんですが、男子トイレの割合からすれば、三分の二は女性トイレの面

積を取った方が良いと思います。

(杉山会長)

ありがとうございます。確認なんですけど、市民ロビーのエリアにトイレが確か広がって設置されているということですね。ここは広がったと思いますけど、会場前というのは、今すごく並んでいて、お客様が混むと言われているんです。そこは広がるということで、作ってくださると思うんですけど、具体的にどのくらいの数かわかりますか。

(A&T 建築研究所)

申し訳ございません。まだスケッチができていません。

(杉山会長)

でも、その数が増えれば今女子トイレが三つしかないの、現在かなり混み合っていますが、会場前や休憩の時もすぐ再入場できて良いかなと思いました。その他、いかがでしょうか。

(本杉アドバイザー)

意見じゃないのですが、一言。僕らも、東京文化会館・サントリーホール・東京芸術劇場・オーチャードホールの4つのホワイエや便所について調べたことがあります。バレエとオペラとオーケストラ公演です。オーケストラでも会員中心の定期公演とそれ以外、バレエとオペラでは国内の団体と外国からの引っ越し公演などを調べてみました。外国から来たバレエの公演では、女性客が圧倒的に多くて、約9割にもなります。バレエ公演の多い上野の文化会館では、この割合になると全く対応のしようがないくらいです。

開演の前にどのくらいの人が集まってくるかと言いますと、定員の約5%の人が集まっています。上野は100人~120人以上集まっている場合が多いです。開演のロープが放たれると、ワッと100人くらい入ってきて、その次の山、それが最大の山ですが、開演の15分くらい前に入ってきます。そのようなピークが2つあります。

女性の方がトイレに行くと思ってる方が多いようですが、僕らが調べた結果、男性も同じ程度の割合で行っています。場合によっては、むしろ男性の方が多く行っていました。もう1つは、トイレに有する時間がどこの劇場でも皆同じかと言うとそうではありませんでした。東京文化会館は改修されましたが、その前に計ったときは女性1人当たりのトイレにいる時間は、非常に短くて東京芸術劇場における半分くらいでした。混んでくると、利用者たちも自分で制御して他のお客様に迷惑がかからないようにという配慮が働いているように思います。

つい最近も、新国立劇場の中劇場で長い芝居を見ていました。それは、15分間の休憩しかありませんで、男女とも並んでいました。でも、15分間のうちに全部はけていました。

列にならないように計画すると設備と維持にお金がかかるのもったいない。

今説明があったように、誰でも利用できるゾーンと切符を持った人しか行けないゾーンがあり、それらを上手く使うという考えは良いと思います。切符を持ってホワイエ外に出た人であれば、緑のところの2階の便所ですとか、1階の機械室の上の緑の便所に行くこととなります。それぞれ沢山はありませんが、各所に分かれてありますので、慣れてくると開演前に、ある程度そういったところを利用したり、休憩時間に切符を持って外に出て、そうしたところを利用したりという人も出てきて、並びはしますが全体として我慢できる範囲になるのではという気がしますね。言い訳みたいになりますが。大ホール・小ホールの公演開始時間や休憩時間が同じにならないような工夫もあります。

(白井委員)

展示室の関係は、消防法でいろいろ決められたと思うんですが、防火設備はどうなんでしょう。貴重な作品等が何カ月かの期間で展示されていますからね。これも展示された人の財産として考えるなら、防火設備も考えていただきたいなと思っています。

(杉山会長)

展示室の防火設備については、今後も考慮にいられていただきましょう。

(A&T 建築研究所)

これから計画が大体決まりましたら各方面の関係機関と協議をして、その中でいろいろ、説明できるように揃えていきたいと思っています。

(白井委員)

市の財産として全てこの会館が大事なんです。預かっているものですか、展示されている貴重な作品はですね、それなりに守っていただければなと思っています。

(事務局)

事務局の方から、次回の協議会の日程及び場所についてご確認いたします。次回の日時は、11月19日木曜日の14時から16時になります。続きまして場所ですが、市役所の分庁舎の5階A会議室で実施いたします。よろしく願いいたします。

(杉山会長)

はい。事務局から次回の委員会の日時・場所のご説明がありました。11月19日木曜日の14時から16時、市役所の分庁舎の5階A会議室でみなさまよろしく願います。その他よろしいでしょうか。

(松永委員)

1回休んだので分からないんですが、会館の上の和室の話は何も出ていないですが。だいぶ要望が出ているので、そのときでいいですか。

(杉山会長)

和室、4階等は次回の議題ということだそうです。以上でよろしいでしょうか。

他にございませんようなので、本日の協議会を終了いたします。長時間に渡り、ご協議どうもありがとうございました。